

はばたけ！ Bonsai Girls!

代表者 武上 実佑 (経済学部地域社会システム学科3年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、高松の地場産業である盆栽に着目して、盆栽に親しみがない若者に盆栽を普及させること、また、盆栽に関心がない人へ盆栽の魅力を発信、向上させていくことを目的とする。

そのために、大学生という、より親しみやすい立場から盆栽づくりをアピールし、身近に盆栽を感じてもらえるようにする。

2. 実施期間（実施日）

平成26年4月1日 から 平成27年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

この事業では、主に盆栽の自主勉強会とワークショップを隔月ごとに行い、Facebook を更新し、盆栽の認知度向上・普及につなげている。

まず、盆栽の自主勉強会では、花澤登人氏のご協力のもと、盆栽園で盆栽の手入れの仕方や種類を学び、実際に季節ごとの盆栽を作る。情報を発信するためある程度の知識を得ることと、私たちのような初心者でも気軽に盆栽を始められるということのアピールが狙いである。

これまでに、黒松や檜の盆景、山アジサイ、枝をハートにした盆栽を自分達の好きなように作った。盆栽に対する堅苦しいイメージを払拭し、自身の創造性を表現できるものということを多くの人に伝えられたように思う。

次に、ワークショップは、盆栽の作り方を私たちが指導する立場になって、参加者の方に教える形式をとった。

学祭では他学部や保護者の方々や、教員にも大好評であった。また、他の学生プロジェクトの「なえどこ」とコラボし、花澤氏の講演のあとにワークショップを行う形式をとった。他にも「直島地域活性化プロジェクト」が運営しているカフェや、「せとぴい」が高松の商店街で行ったイベントに赴いてワークショップを開催した。

ネックであると考えられた値段を支援経費で補い、手ごろな価格で販売することで、多

くの参加者を獲得できたように思う。また、大学生が教えることで格式高いイメージをなくせたのだろう。

また、Facebook の閲覧者は香川県内の方の割合がほとんどだが、県外や海外のファンも獲得しており、一つの成果である。更新をするごとに認知度が向上していることが目に見えてわかる。実際に声をかけてくださる人や、取材は Facebook の情報を見た人がほとんどだった。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

日本貿易機構の「加速的重点プログラム10項目」に盆栽が加わり、現在注目を浴びている。松盆栽のシェア8割を誇り、盆栽の産地として全国的に有名な香川県も並行して注目されている。

そのような地域の特性を地元の大学生が発信することは必ず今後の地域との関わりに重要な要素となると考えられる。実際に大学が地域に目を向けていることを伝えるチャンスとなるのが私たちの活動であると思う。

地域の方にも、大学生という普段関わりのない立場の人間と関わることによって、新たな発想のきっかけになったり、自分と違う世代の見方を知る機会になったりと、大学も地域もお互いに相乗効果になる。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この事業により、ほとんどの構成メンバーの知見が広がったと感じる。その広がりを感じた点は3つある。

1点目は、高松の名産品である盆栽についてである。県外出身者だけでなく、香川県出身の人もあまり盆栽について知らなかった、興味がなかったことが多かったが、この活動を通して、盆栽の魅力に触れ、もっと多くの人に盆栽を知ってもらいたい、という気持ちから、自発的に行動するようになった。そのお蔭か、多くの人に私たちの活動を評価していただき、それがさらにメンバーのモチベーションを上げることに繋がった。

2点目は、チーム運営についてである。新入生が多く、最初は活動に関して戸惑うことも見受けられたが、徐々に主体性が身に付き、積極的に行動できるようになった。また、活動の回を追うごとに、メンバーの結束力が深まり、お互いを切磋琢磨するようになった。そして、結果的にチームの向上が図れたと感じている。また、事務作業なども円滑に進むようになった。

3点目は、地域の方々とつながっていった点である。お世話になった盆栽作家である花澤氏をはじめ、今年度行われた高松盆栽大会では、地域の方々に関わりをもつことができた。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点は、関わる地域の方の人数をあまり増やせなかったことである。お世話になっている花澤氏の他に、盆栽の普及活動に取り組んでいる方に積極的に交流を呼びかけられなかった。しかし、一方でメディア関係の方との交流関係や県外の方々との親交が増えたので良かったと思う。

今後は、県内の盆栽作家の方々と連絡を取り合うようにしたい。また、現在は Facebook のみで情報発信をしているので、他の情報発信の仕方の模索や、ワークショップだけではなく、いろいろな活動に取り組めるように、更にレベルアップした活動に取り組みたいと考えている。

昨年度から活動自体は始まったが、今年度はメンバーのほとんどの入れ替わりや高松盆栽大会の開催など、大きな節目となった。多くの活動やメディアにも取り上げて頂いたおかげで、たくさんの地域の方に応援していただけるようになった。そして、何より、メンバーの結束力が次につながる原動力となっている。今後もずっと活動を継続させていきたい。

7. 実施メンバー

代表者 武上 実佑（経済学部 3 年）

構成員 浅野 真弥（経済学部 4 年）

入江 美聖（経済学部 1 年）

前田 遙（経済学部 1 年）

宮谷亜香里（経済学部 1 年）

泉川 美緒（経済学部 3 年）

杉山 美栄（経済学部 1 年）

水野 桃嘉（経済学部 1 年）

宮田 敏江（経済学部 1 年）